

快適な乗り心地アピール

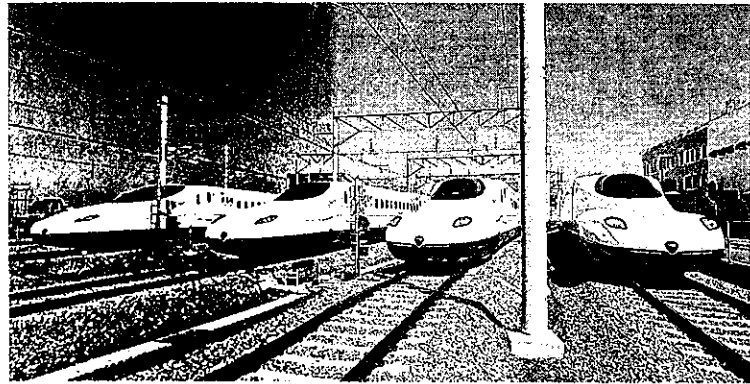
JR九州 西九州新幹線報道試乗会

JR九州は10日、23日に開業する西九州新幹線「かもめ」(武雄温泉―長崎間)の報道機関向け試乗会を実施した。同社が招いた海外メディアを含む約80社140人が参加し、開業後に武雄温泉駅で始まる新幹線と在来線特急の同一ホーム対面乗り換えや、「かもめ」の快適な乗り心地などを体験した。



「かもめ」の快適な乗り心地を体験する報道陣

同新幹線は、同区間(69・6キロ)に途中駅の嬉野温泉、新大村、諫早を含む5駅を設置。N700S「かもめ」が最高時速260キロで走行し、同区間を最速23分で結ぶ。博多―長崎間の所要時間は、武雄温泉で在来線特急「リレーかもめ」を乗り継ぎ、最速1時間20分。
この日、長崎線佐賀駅に集合した報道陣は、「リレーかもめ」に仕立てた885系(6両編成)の専用列車に乗車。佐賀を出た列車は肥前山口から佐世保線に入り、武雄温泉へ。同駅と同じホームの対面に停車している新幹線「かもめ」(同)に乗り換え、長崎まで試乗した。



全4編成が勢ぞろいした新幹線「かもめ」

新幹線と合わせて、JR九州が「かもめ」報道陣に公開した。集合!!「かもめ」はN700S6両編成で、ドンデンザイン研究所代表の水戸業まで2岡鋭治氏が手掛けた白と赤の外観が特徴。この日は全長約150メートルの車体が鼻先を合わせて横一線に並び、迫力ある光景を演出した。
開業後は毎日上下計47本を運転するため、JR九州によると4編成が一大村車両基地に「最初で最後」・4編成のうち1編成は車両の非常用バッテリーを使って非電化線に移動させて、貴重なシーンを実現した。

「かもめ」全4編成勢ぞろい JR九州 大村車両基地で公開

換え(接続)時間は約3分に設定。今回は取材のために約20分の時間が用意され、報道陣は実際に対面乗り換えを体験したり、ホームを挟んで特急と新幹線が並ぶシーンを撮影した。
報道陣を乗せた「かもめ」は武雄温泉駅を出発し、力強く加速。高速域に入っても揺れはほとんどなく、実に快適だ。1号車の指定席は木製の4列シート(2席12席)が採用され、ゆったりとくつろげる。
木製シートのクッションは号車ごとに色と和風柄が変化し、それぞれ客室内の趣が異なる。クッションの弾力がほどよく、座り心地も申し分ない。4号車の自由席の5列シート(2席13席)は黄色で統一され、客室内を華やかにしている。
区間全体の約6割がトンネル区間のため、駅周辺を除いては車窓からの景色は断片的だ。しかしながら、新大村駅手前の大村車両基地辺りからは在来線の大村線と並行する形で走行し、車窓から大村湾の景色を眺めることができる。
「かもめ」の試乗列車は武雄温泉から各駅に停車しながら、所要31分で長崎に到着。短い乗車時間だったが、新幹線の快適性とスピードを十分に体感できた。在来線では2時間ほどを要する同区間が約30分で結ばれ、沿線地域の生活圏は大きく広がる。
海外メディアの関係者は、木製シートに高い関心を示し、「優れたデザイン性とスムーズな走行性能を兼ね備え、とてもラグジュアリーな乗り物」と感想を語っていた。

885系専用列車は佐姿が見えた。同じ6両編成高橋駅を過ぎて高成だが、新幹線車両の方が見え、武雄温泉駅の本が少し長い。先頭部に入線すると、真新が手前で停車した。
新しい新幹線「かもめ」の開業後、ここでの乗り換えが採用され、ゆったりとくつろげる。